



低温に注意。生育が進んでいるほ場では 冷害危険期のはじまり。深水管理で不稔防止

J A たきかわ 営農部
空知東部地区農業改良普及センター

7月9日までは最低気温が12～13 の予想

生育が進んでいるほ場は、冷害危険期の初期段階を迎えております。低温傾向が続くことが予報される中、花粉の充実不足による不稔発生の恐れがあります。

表 - 1 幼穂形成期からみた前歴期間、冷害危険期等の予測

	幼穂形成期	前歴期間	冷害危険期	止葉期	出穂期
ほしのゆめ	6/26	6/27 ~ 7/6	7/7 ~ 7/14	(7/13)	(7/22)
きらら 397	6/28	6/29 ~ 7/8	7/9 ~ 7/16	(7/15)	(7/24)
平年値	6/30	7/1 ~ 7/10	7/11 ~ 7/18	7/17	7/26

(空知東部管内、成苗：5/26～5/30移植) 平年値はきらら397

幼穂を保温する深水管理

低温傾向が続く予報の中では、幼穂の伸長に合わせて、水を徐々に深くし保温することが極めて重要です。

冷害危険期は、花粉を充実させる時期です。低温時は可能な限り(最低でも10cm以上)深水にして水温を21以上に。

この期間の中干し、かけ流しは絶対避け、止め水を確実に行きましょう。

止葉が7割揃ったら、落水し、中干ししましょう。

葉いもちに注意

葉いもちの好適条件日が6月27～28日(芦別)に出現しています。7日後にいもち病の初発が予想されます。過去に発生経歴のあるほ場は注意が必要です。

観察のポイント

下葉から発病するので、株間をかきわけて観察しましょう。

前年もしくは近年発病しているほ場。

いもち病に弱い品種を作付けしたほ場。(「ほしのゆめ」「ななつぼし」)

風当たりが弱く、夜露が乾きづらいところ。